

2月は全人代の開催を控えて、治安関係が厳しく統制されていたり、ネット上などでも情報が管理されており、暴動情報がほとんど入手できなかった。またジャスミン革命に関連して、その波及を怖れた当局が、徹底してネット管理を行った影響もある模様である。1. は現場検証済み。

※暴動評価基準は文末に掲示。

1. 2/24、江蘇省連雲港市灌南県李集郷で、大規模な警察と民衆の衝突。 暴動レベル2。

- ネット上での情報 : 灌南県李集郷開拓地村の解麗蓉さん母子3人が、2/14、夫が依頼した何者かに殺害された。当局は自殺として処理しようとした。また一時疑われ逮捕された容疑者も、郷共産党書記の親戚であったため釈放された。解さんの家族は死因に疑問を持ち、自宅の前に安置し体の傷などを見せ、近所の人々に他殺を訴えた。当局は2/24夕方、人を派遣して、遺体を解剖するという名目で、葬儀場に強制的に運び去ろうとした。そこに約5万人の村人などが集結し、それを阻止した。警察はただちに、消防車を出動させ、放水するなどして村人を解散させた。その混乱の中で、2名の村人が死亡、5歳の女兒が車にぶつかって死亡。警察側も10余名が負傷し病院へ送られた。
- 実情 : 灌南県李集郷拐圩村の現場付近には、騒動の形跡はいっさいなかった。



《遺体が安置されていた場所》 住民たちも一様に口が固く、誰もあまり真相を語ってくれず、厳しい統制がしかれている雰囲気であった。それでも近所の住民の話によれば、解さんの夫には愛人があり、夫婦は仲が悪く別居中であり、夫が愛人と結婚するために解さん母子を殺害した可能性は否定できないという。死因は不明で、現在、江蘇省公安厅が解剖中とのこと。騒動当日は、約5千人の村民が集まり、公安が遺体を運びさることに抗議したという。村民が国道にまであふれ出し、交通を封鎖したので、警察や消防が出動したという。日頃の政府当局や警察に対する不満が、このような形で爆発したもののである。

附 2. ジャスミン革命の余波。

① ネット上の書き込みに呼応した動き。

- 2/19、胡錦濤主席が、北京での党幹部の研修会で、「国内外の情勢変化を正確に把握し、社会管理を強化しなければならぬ」と発言し、ジャスミン革命の波及についての危機感を表した。
- 2/19、海外中国ネットに、「北京や上海など13都市の繁華街で、2/20の午後2時に広場に集まり、中国にジャスミン革命を起こそう」という書き込みがあった。この書き込みは海外法輪功グループの一員、あるいは6・4民主運動のリーダーであるとの未確認情報あり。
- 2/19、天安門事件の元学生リーダーの一人で、四川省在住の丁矛氏が国家政權転覆扇動容疑で身柄を拘束。
- 2/20午後2時、北京市王府井で、通行人や観光客が集まり、約1000人の人だかりができたが、すぐに警察に解散させられた。成都や広州でも集会あり。
- 2/20午後、上海の繁華街では学生や会社員50名ほどが集合。
- 2/20午後、ネットで呼びかけられていた瀋陽の繁華街の集合場所に、日本瀋陽総領事館員が様子を見に行っていたところ、公安当局者に拘束された。約1時間後に釈放。
- 2/20、ジャスミンの中国語である「茉莉花」という文字が、ネットで検索不能になる。携帯電話のショートメッセージでも、「茉莉花」という文字が入ると送信不能になる。
- 海外中国ネット上では、「19日のネットへの書き込みは、中国政府の罫ではなかったのか」という意見あり。
- 2/25、北京市公安局は、北京常駐の外国メディアの記者に対して、法規を遵守して取材を行うように通知。
- 2/27、外国人メディア関係者10数人が、北京市内の集会を取材しようとして、身柄を拘束された。なお違法な取材を続ける記者にはビザの延長を認めないと警告。
- 2/27、上海市人民広場周辺で、ネットで指定された集合場所に1000人以上の人が集まった。警察が人だかりを蹴散らし、道路清掃車が水を撒いて、人々を解散させた。
- 2/27、ネット上でデモの呼びかけがあったウルムチ市中心部の映画館前広場には、対テロを専門とする特殊警察部

隊が厳戒態勢を敷いて、警戒に当たった。

- ・3/01、中国外務省の定例記者会見で、外国人記者から取材妨害や身柄拘束について、姜瑜副報道官に鋭い質問が1時間半ほど続いた。
- ・3/03、国際ジャーナリスト連盟は、中国当局の取材妨害やビザ延長拒否への批判声明を発表。
- ・3/11夜8時半、四川省遂寧市駅前の明月路で数百人の民衆が道路を塞ぐ。民衆がジャスミン革命の影響で、当局が著名な民主活動家の劉賢斌を逮捕したことに抗議した模様。その後、劉賢斌には10年の罪。
- ・3/20、5回目のジャスミン散歩活動が、北京・上海などの沿岸部都市から内陸部都市へ波及。西安では西北工業大学の学生500人が散歩。
- ・3/27、香港のネット上で、中国各地の第6回ジャスミン微笑散歩デモに声援の書き込み。
- ・3月後半、ジャスミン革命の波及を恐れた中国当局が、メディア関連や反体制知識人への弾圧を強化。多くのメディア関連言論人が辞職。
- ・4/03、「鳥の巣」設計者の艾未未氏が当局により身柄を拘束される。
- ・4/04、米國務省のトナー副報道官代行は、艾未未氏の即時釈放を求める声明を発表。
- ・4/06、「中国ジャスミン革命集会」の海外のネット上での書き込みなどは、米国在住の中国人留学生で構成する民主派グループであったことが判明。

②中国人のリビアからの脱出作戦。

- ・中国商務省は、リビア国内の動乱で、2/23時点で、計27の中国企業の建設現場や仮設テントが攻撃を受け、略奪されたと発表。なおリビアでは75の中国企業が事業を展開している。
- ・中国外務省は、3/03までに、リビア在住の中国人約3万5860人を、リビアから脱出させたと発表。チャーター機や大型客船4隻や大型バス約100台をリビアに派遣。護衛のために海軍のフリゲート艦も出動。

③「中東ドミノ」がサウジアラビアにも波及か？

これまではエジプトとならんで親米路線を進めてきたサウジアラビアだが、エジプトのムバラク大統領があっけなく失脚、チュニジア、リビアに加えてシリア、ヨルダン、バーレーンでも民主化要求のデモが頻発、これに影響されてかサウジ内部でも失業者増加などへの不満からデモが起き、宗教対立ともからんで政治情勢が不安定になりかけている。なおサウジには80歳を過ぎて高齢で病弱なアブドラ国王の王位継承問題もあり、その動静が注目されている。

《私の暴動評価基準》

暴動レベル0：抗議行動のみ 破壊なし

暴動レベル1：破壊活動を含む抗議行動 100人以下(野次馬を除く) 破壊対象は政府関係のみ

暴動レベル2：破壊活動を含む抗議行動 100人以上(野次馬を除く) 破壊対象は政府関係のみ

暴動レベル3：破壊活動を含む抗議行動 一般商店への略奪暴行を含む

暴動レベル4：偶発的殺人を伴った破壊活動

暴動レベル5：テロなど計画的殺人および大量破壊活動

以上